

2021年10月8日

報道関係各位

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社
東京都港区港南 1-2-70

ロシュの全自動遺伝子検査装置、小型化を実現 「コバス 5800 システム」 JACLaS に出展

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社（本社：東京都港区/代表取締役社長 兼 CEO：小笠原 信）は、現行機種のパフォーマンスを維持しながら小型化を実現させた全自動遺伝子解析装置「コバス 5800 システム」を、2021年10月8日～10月10日にパシフィコ横浜で開催される JACLaS EXPO 2021 臨床検査機器・試薬・システム展示会に出展します。

「コバス 5800 システム」は、核酸抽出から増幅・検出までの全工程を全自動で行う遺伝子検査装置です。検体をセットしスタートボタンを押すだけで、リアルタイム PCR 法の遺伝子検査が全自動で行われます。受託臨床検査会社や大学病院で採用実績のある現行機種「コバス 6800 システム」および「コバス 8800 システム」のラインアップに加わる新モデルで、全機種共通の試薬が使用できます。測定項目には、新型コロナウイルス、肝炎ウイルス、HIVなどが含まれます。

設置面積は約 1 m²で、現行機種と比べ約 1/3 または約 1/5 とコンパクトながら、一度に 24 検体、最大 6 項目まで同時に測定が可能です。また多様な項目、検体種の検査を 1 台で行える性能に加え、緊急時に優先して緊急検査を実施する割り込み機能なども備えています。信頼性、効率性、使いやすさを兼ね備えたシステムとして、スペースに制約のある検査室での活用が期待されます。

【製品概要】

- 製品名：コバス 5800 システム
- 主な特長：
 - 多様な測定項目、検体種の検査を一台の装置に集約。設置面積は約 1 m²で、スペースに制約のある検査室にもフィット
 - 検体をセットしスタートボタンを押すだけで、新型コロナウイルス、肝炎ウイルス、HIV などの遺伝子検査を全自動で実施
 - 一度に 24 検体、最大 6 項目まで同時に測定。検査室のニーズに合わせて、項目の優先度を事前に設定でき、必要な測定結果を適切なタイミングで入手可能
- 仕様：
 - 寸法 1,442mm (W) × 791mm (D) × 1,846mm (H) ※ 設置面積 約 1 m²

- 重量 620kg
- 最大処理能力 144 テスト / 8 時間
- 1 バッチ目 結果リリース時間 3 時間
- 1 バッチ検体数 24 検体
- 同時測定可能項目 6 項目 / 1 バッチ

■ 発売時期：2021 年 11 月末予定

【製品写真】



コバス 5800 システム

会社概要

創立 125 周年を迎えるロシュグループは、ヘルスケア業界で革新を起こし続ける、世界有数のバイオテックカンパニーです。医薬品と診断薬を併せ持ち、健康・予防・診断・治療・予後のすべてのステージにおいて、医療従事者の皆さまと患者さんが最適な治療選択や意思決定をできるよう支援しています。

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社はロシュ診断薬事業部門の日本法人です。日本における診断薬事業は 50 年の経験と実績があり、2021 年 1 月現在で従業員 728 人、全国 9 都市に支店を有し、体外診断用医薬品・医療機器事業、研究用試薬・機器事業などを幅広い領域で展開しています。診断の革新によりヘルスケアの未来を形づくり、人々がより健やかに、自分らしい人生を送れるようサポートすることを目指しています。

詳細は、<http://www.roche-diagnostics.jp> をご覧ください。

本件のお問い合わせ先

広報部門

email: tokyo.pr@roche.com